

関西 ECOMAIL 第46号

関西 ECOMAIL

関西支部会員のみなさまに、ワークショップのお知らせや環境教育に関わる情報の交換をしていただくために発行しています。

また、学会員以外で環境教育に関心をもっておられる方や実践をされている方も、広くコミュニケーションを図りたいと思っています。

日本環境教育学会会員のみなさまには支部会費、会員でない方には購読費として、年間1500円を振り込んでください。ワークショップの案内及びこの関西ECOMAIL(年約6回発行)を送らせていただきます。

(通信費振り込み先: 日本環境教育学会 関西支部 郵便振替口座

00990-5-37886)

日本環境教育学会関西支部第7回研究大会 一般研究発表募集のお知らせ

☆日本環境教育学会関西支部では来る12月12日(土)大阪教育大学天王寺キャンパス(天分)において第7回研究大会を実施します。つきましては、一般研究発表を募集いたしますので、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

申し込み締め切り 11月13日(金)

要旨原稿締め切り 11月27日(金)

申込・問い合わせ先 ☎582-8582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

大阪教育大学 環境科学教育研究室(鈴木善次研究室) 気付

日本環境教育学会関西支部事務局 第7回研究大会係

☎&FAX 0729-78-3381 [直通]

第46号 目次

- ・第69回関西ワークショップのお知らせ … 2
- ・第68回ワークショップの報告(赤尾整志) … 3
- ・津崎優子の詩のコーナー … 3
- ・特集-ケニヤからの便り (秋吉博之) … 4~5
- ・トンボサミットからの発信 (赤尾整志) … 6~7
- ・ネットワーク … 8



第69回 関西ワークショップのお知らせ

『こうべ森の小学校』体験ワークショップ
～森でピザを焼いて、森の手入れをしよう！！～

日時：10月25日（日）11:00～15:30（雨天決行）

場所：神戸市北区 再度公園（ふたたびこうえん）内

集合場所は神戸市森林整備事務所前

交通：現地まではJR・阪神・阪急「三宮駅」から市バス（25番、森林植物園行）にて「再度公園バス停」下車し、森林整備事務所まで公園内を徒歩5分。

内容：都市における環境教育プログラムとしての「こうべ森の小学校」を体験する。環境教育の理論面ばかりを強調するのではなく、それを実践している神戸市の意欲的な取り組みを、実際に参加者になって体験することが目的。参加者は森で薪を集め、ピザやバウムクーヘンを焼くことによって、自然な形で森に入り、森が好きになっていく。今回は、このような活動を行なっている「こうべ森の小学校」体験ワークショップに是非ご参加下さい。

※雨天の場合はインストラクターの秦氏に「こうべ森の小学校」の活動報告をしていただく予定です。

参加費：500円（材料費・保険代）

持ち物：弁当・お茶・作業のできる服装

インストラクター：秦 誠 氏（神戸市森林整備事務所、こうべ森の小学校事務局、
ばあび連（バウムクーヘン・ピザ普及連盟））

申し込み・お問い合わせ：

日本環境教育学会 関西支部事務局（P. 8参照）

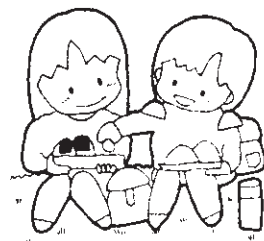
※当日参加は可能ですが、準備・材料の都合によりできるかぎり20日までに参加申込をお願いいたします。また、当日の昼食（弁当）は各自でご用意ください。

当日の連絡先：

神戸市森林整備事務所 TEL. 078-371-5938

----- 「こうべ森の小学校」 -----

「こうべ森の小学校」は「市民参加の森づくり事業」として、平成9年5月より行なわれてきた。小学生が遊びながらものごとを学んでいくように、これまで森に関わって来なかった人たちを対象に、森で木を伐ったり工作などをして遊んだ結果が森の管理、環境教育になるような活動をしている。平成9年度は行事を15回行ない800人近い参加者を得ている。



9月26日・27日の2日間にわって、「エコ・フェスタかんさい」が万博記念公園お祭り広場で行われました。これはCOP3（京都）からCOP4（ブエノスアイレス）へをキャッチフレーズに、NGOや関心のある企業・行政の人たちが集まる秋のお祭りです。関西支部では会員の皆さんにこのイベントを紹介して、9月ワークショップ（自由参加）としました。支部関係では、せいわエコクラブの活動一癒しの森フィールドワーク（原田・赤尾）の写真展示を、大阪自然環境保全協会のブースの一部をかりて行いました。

広いお祭り広場一杯に各参加団体のテント村やフリーマーケットの出店がだされ、ステージのショーやソーラースクーターの試乗なども行われましたが、開催期間の2日とも台風7・8号の後の雨にたたられて、あまり盛り上がりの見られなかったのは残念でした。



津崎優子 詩のコーナー

満天星

津崎優子詩集『水の色は地球の色』より

肌をさす冷氣の中

星々は冷たく固く

たった今めざめたばかり

地上の闇に 身を任せ

たたずめばそこは

すべての星の輝きの

焦点

硬質な星の光に

いくつも つらぬかれ

痛い程感じている

満天星の夜空



ケニアからの便り (その1)

イギリスを経由してケニアへ向かう

JICA専門家 (ケニア・中等理数科教育強化プロジェクト)

秋吉 博之

8月29日午前11時すぎ、イギリスに向けて関西空港を飛び立った。飛行機は神戸港沖を南下し中国山地を超え、さらに日本海を経てシベリアの大地に達した。人家も稀にしかない広々とした荒野だ。ときおり直線の道路が見える。小さな飛行場のそばに建物が見える。その雄大さに機内の窓からカメラを向ける。

昼食後しばらく仮眠を取る。気がつくと飛行機はオランダ沖を飛行し、イギリス本土に入る。なだらかな丘陵地帯に草原が広がるが、作物はあまり植え付けられていないようだ。ロンドン市内を低空で大きく迂回すると、テムズ川の流れがよく見えた。全体として建物はあまり高くないように思える。同日午後3時30分ロンドン・ヒースロー空港に到着した。

ロンドン市内には日本製の車も多く、アメリカと比べると中型や小型車が多く見られる。国土の広さの違いからだろうか。大柄のイギリス人が運転していると車も小さく見える。空港から車に乗りロンドン市内のホテルに到着する。古風なつくりで威厳のある建物である。イギリスの夏の昼間はとても長く、8時ぐらいまで明るい。おかげで歩いて市内見物ができた。ロンドン市内の建物の外壁にはレンガが多く用いられている。古い建物を大切にしているからだろう。

翌日、見学先を自然史博物館に絞ることにした。ロンドンの地下鉄は比較的安全だと聞いたので、恐る恐る切符を購入し乗車した。予想に反して清潔で安全であった。地下鉄を乗り継いで自然史博物館に向かう。地下鉄を降りて地下街を歩いていると入場券が販売されていたので購入した。しかしよく見ると、それは隣接する科学博物

館の券であった。時間を気にしながら駆け足で科学博物館をまわった。巨大な蒸気機関の動きが目を引いた。次は自然史博物館だ。建物の中で生物と地学分野に分かれていたので、まずは生物分野を見ることにした。エントランスホールの恐竜の巨大な化石に圧倒された。ダーウィンが研究した遺伝に関する展示が印象深かった。また環境に関する展示もあり、一般的な内容であるが興味を持った。環境問題は各国に共通する課題だ。最上階には標本が整然と並べられていた。次に地学分野の展示に向かう。そこで「神戸」の文字が目に入った。なんと阪神淡路大震災についての展示があった。地震の揺れを体験できるコーナーがあったが、実際にはもっと揺れは大きかったのではないかと思った。

さらに時間を気にしながら大英博物館へ向かった。寄付の依頼があるものの入場料がいらぬのが気に入った。自然史博物館に比べて日本人の姿が目立つ。ここでは膨大な展示のすべてを見ることはできないので、古代エジプトの展示に絞って解説を見ながらゆっくりと見学した。ロゼッタストーン、実物のミイラが印象に残った。3つの博物館を見学した満足感と心地よい疲れを感じながら、5時すぎにホテルに戻った。

午後7時すぎにホテルを出発し、ロンドン・ゲットウィック空港に向かう。22時50分ナイロビにむけて出発した。窓際から夜景がみえる。疲れていたもので寝入った。ふと目が覚めると夜明けが迫っていた。明けの明星が見下ろすところに輝いている。飛行機は草原地帯の真っ只中を飛び、やがて着陸態勢にはいる。8時31分8時すぎ、広大なサバンナの中にあるケニア・ジョモケニヤッタ国際空港へようやく到着した。(続)

.....

国際社会で活躍されている世話人・秋吉さんのご活躍を祈念する意味をこめて、帰国されるまでエコメールに特集として随時掲載していく予定です。

トンボサミットからの発信

赤尾整志

第9回全国トンボ市民サミット神戸大会が8月22日・23日に開催されました。この熱気に溢れた2日間。私も実行委員の一人としてエクスカージョンや分科会のお世話をさせていただきました。その中からとくに第1分科会・環境学習「もっと自然を知りたいなあ」で話し合われた内容を紹介します。

この分科会は、学校や地域の環境学習をテーマにして企画されたものです。コーディネーターを担当してくださった森清和さん（横浜市環境科学研究所・横浜にトンボを育てる会）は、冒頭に「（トンボ池づくりのような）場があって、初めて環境学習の話も具体的に議論できるようになる」として「環境学習の内容というよりは、自然環境をいかに教育の中に取り入れていくかをこの分科会の課題としたい」と話された。そんなねらいからパネラーには、神戸で初めてトンボ池づくりに取り組んだ神戸市立名谷小学校の元校長の佐藤和子さんと当時1年生だった正野君が、また現在神戸市でトンボ池づくり（学校ビオトープ）のリーダーシップをもつ藤井昭義さん（神戸市立鹿の子台小学校）がそれぞれ話題提供をしました。3人目のパネラーは環境教育とトンボ池づくりの関わりで先進地である横浜市から招いた、同市立下永谷小学校の尾上伸一さん（ふるさと侍従川に親しむ会）です。学校を起点にして地域ぐるみ環境学習の場まで発展させたプロセスを、実際に活動してきた子どもや住民（当日同会場に参加）の生の声によって発表し、この分科会の圧巻となりました。

元校長の佐藤さんは、「当時は池づくりにも苦労が多かったが、そんなことよりもっと大事なものが得られた」として、正野君（現在中学2年生）は「中学生になった今、本物の自然と出会う機会となったトンボ池づくりに関わられたことを誇りに思い、身体全体で喜べる何かを探す自分をつくることができた」と発言。いみじくも学校のトンボ池がこんなふうになを育てているのだなあという思いを強くしました。また、神戸市の君影小学校と鹿の子台小学校の2校にモデル的な学校ビオトープを造った藤井さんは、神戸市内の学校・園でいま急ピッチにビオトープが増えている現状を報告し、とくに総合学習を視野に入れた野外授業の実践とそれを支える校内全域のビオトープネットワーク化について、鹿の子台小の事例を紹介しました。さらに学校ビオトープの今後の課題として、①持続的に管理するためには、先生や生徒が興味をもてるよう規模や

機能を充実させる。②総合的な学習をふくめて、カリキュラムや教材開発を急ぐ。③新設校に対する規模と機能の基準をつくる。④行政・市民・企業のバックアップをとりつける。などを強調しました。

横浜の尾上さんは、前任校の横浜市立大道小学校の50周年記念事業として始めた手づくりのトンボ池が学校の子どもたちを生き生きとさせ、その子どもらの自己満足と愛着心が内からのエネルギーとなって外にあふれ出し、地域ぐるみの活動へと発展していったプロセスを発表しました。当時小学生であった吉田君は「池づくりが一段落したとき、侍従川（この地域を流れる河川）にも関心がわいて、川のクリーンアップ活動でゴミ拾いなどを始めた」と当時の心境を話しました。また66歳になる住民の一人は「子どもたちは川に入ると生き生きとしているんですね。それを見て一緒にゴミ拾いをしたり、侍従川を大切にしていきたいと感じた」とその感想を話しました。そして「大人はこの子どもたちのために地域で何ができるのか」という問から、子どもと学校と地域が一体となってまちで遊ぶ組織づくりが始まりました。このように初めに学校のトンボ池を中心としたフィールドワークは、子どもたちの感性を育んだだけでなく、地域の大人たちまでも童心に戻って子どもと一緒に遊ぶようになりました。校内のトンボ池という点が侍従川という線で結ばれ、さらに流域全体の住民の関心へと互いの「関係」が具体的になっていったのは、素晴らしいことだと思います。その中心になって活躍した尾上さんも、「社会全体が無機的になってきているとき、この活動は将来にわたっても子どもたちを健やかに育てていくと信じる」と話していました。

分科会の終わりにコーディネーターの森さんは、「トンボ池は環境教材としての展開もできるが、子どもらが参加しつつ作り上げること自体大きな環境学習の効果をもっている」として次のような結びをされたことは、非常に印象的でした。-----「アメリカのまちづくりの専門家が日本を訪れて、『手づくりのトンボ池に感動した』と言っています。そして『池づくりには地域のコミュニティづくり、人と人の出会いを作る効果があるので、外国のものばかりに目を向けずに日本の中にある、そういう大きな効果をあげるものを大事にするべきではないか』とコメントしていました」



「環境NGO入門講座」

ネットワーク

—日本の環境NGO最前線のスタッフとともに、NGO活動が学べます—

日時 平成10年11月28日(土) 10:00~16:30

主催 環境事業団 地球環境事業団

企画・運営 環境市民

協力 環境共育事務所カラーズ/関西セミナーハウス

(財)千里リサイクルプラザ研究所

会場 京都アスニー(京都市生涯学習総合センター)

京都市中京区丸太町通七本松西入

(市バス千本丸太町またはJRバス丸太町七本松下車)

定員 150名

参加費 無料(ただし、申し込みの必要があります。FAXか郵送かE-mailで)

環境市民 〒604-0932 京都市中京区寺町二条下る呉波ビル3F

TEL 075-211-3521 FAX 075-211-3531 E-mail cefngo@mbox.kyoto-inet.or.jp

Teaching Kids to Love the Earth ワークショップ

センス・オブ・ワンダーを育み、身近にできる環境教育プログラム

日時: 1998年11月28日(土) 午前10時~29日(日) 午後3時

講師: ジョセフ・パッシノ氏 (Mr. Joseph Passineau)

(ウイスコンシン州立大学スティーブンスポイント校ナチュラリソース学科教授

Teaching Kids to Love the Earth の著者)

場所: 京都市宇多野ユースホステル

定員: 30名

参加費: 20,000円(学生18,000円)

受付: 以下にTELかFAXかE-mailで申し込んでください。

(財)京都ユースホステル協会・環境教育事業部(担当: 山本幹彦)

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町29

TEL 075-462-9185; FAX 075-462-2289; E-mail hikyhee@mbox.kyoto-inet.or.jp

関西ECOMAIL

第46号 1998年10月14日発行

編集 日本環境教育学会 関西支部 世話人会 広報委員会

発行 日本環境教育学会 関西支部

事務局 大阪教育大学 環境科学教育研究室(鈴木善次研究室) 気付

〒582-8582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

(TEL&FAX) 0729-78-3381[直通]

第47号は 1998年11月27日発行予定 原稿必着期限11月20日

E-mail: m979344@ikoma.cc.osaka-kyoiku.ac.jp